

第一部

春模様 — 狐の夢

詩… 高原 桐
 曲… 松村 百合
 歌… 伊藤 香代子
 笙… 石川 高
 琵琶… 久保田 晶子
 チェロ… 平賀 香奈子

トルファンの蜃気楼

詩… 田井 淑江
 曲… 高橋 通
 歌… 鈴木 房江
 箏… 高橋 澄子
 二胡… 王明 君
 打楽器… 児玉 和人
 打楽器… 高橋 通

露とこたへて

詩… 佐久間 郁子
 曲… 田丸 彩和子
 歌… 鴨川 太郎
 十七絃… 石垣 清美
 尺八… 二代 石垣 征山

光を花と散らす

詩… 中西 遙
 曲… マーティ・リーガン
 歌… きむらみか
 二十五絃… かりん
 尺八… 小湊 昭尚

第二部

組曲『はるかなる想い』 — 薪能葵上に寄せて —

紅い火 葵上

詩… 伊豆 裕子
 曲… 池上 眞吾
 歌… 横山 政美
 箏… 池上 眞吾
 十七絃… 吉澤 延隆
 尺八… 大河内 淳矢

『和』の編成による二つの歌

桜花幻想 夢あかり 駿河舞

詩… 貞松 瑩子
 曲… 増本 伎共子
 歌… 前中 榮子
 二十絃… 重成 礼子
 笙… 野田 説子

遠き井戸

詩… 西岡 光秋
 曲… 小森 昭宏
 歌… 秋山 恵美子
 尺八… 米澤 浩
 箏… 熊沢 栄利子
 打物… 多田 恵子

うねり — 生きるために —

詩… 藤井 慶子
 曲… 高橋 久美子
 歌… 青山 恵子
 十七絃… 市川 慎
 尺八… 小湊 昭尚

ごあいさつ

社団法人日本歌曲振興会常務理事
 「邦楽器とともに代表」 森田澄夫

本日はお忙しいなか、ご来場頂きまし
 たことを、心より感謝申し上げます。

このシリーズの六回目を迎えるにあ
 たり、更なる発展を目指して、今回よ
 り会場を津田ホールに移すことに致し
 ました。

これまで、この企画を期に大変意欲
 的な詩人、作曲家、声楽家、十余名が
 入会し、今回も会の充実に一役買っ
 ています。

既存の「邦楽器を伴う日本歌曲」を
 当会の内外から集め、デモンストレー
 ションとして行った初回を別として、
 二回目以降は新作の会として行っ
 りました。お陰様で生み出された作
 品は今回で四〇曲を数えます。

また今回は、米国人の作曲家の参加
 も実現しました。チラシにも英文表記
 を加え、「東西の融合、東から西への
 発信」という大きな目標に向かい、
 様々な課題を克服しながら邦楽奏者
 とともに手を携えて一歩一歩前進して
 参る所存です。

今後ともご指導ご鞭撻をお願いする
 とともに暖かいご支援のほど、宜しく
 お願い申し上げます。

なお、今回より、当企画の代表を中
 村綾子から不肖、森田澄夫が引き継が
 せて頂きます。

【第六回「邦楽器とともに」実行委員】

中村綾子 鴨川太郎 木下宣子 千秋次郎
 中村洋子 森田澄夫 伊藤香代子 きむらみか
 関根恵理子 高島和義 高橋久美子 藤井慶子
 横山政美 和澤康代

◆春模様―狐の夢

北国の未だ寒さの残る大気の中にも、春は確実に到来し花々が開き始めます。かつて、そのような弘前のさくら吹雪の中で、夢を見ているかのような狐の赤ん坊に出会ったのどかな一日を、いつまでも忘れられずにおります。邦楽器の笙は天と地の間に漂う音として、琵琶は命のはじける音、チェロは時の流れをうけもつのでしょうか。東国の被災地の浜辺にも、いつものように浜梨が芽吹いていると聞きました。どうぞ、この作品から命の息吹を感じてくださいますように、希望が耀いてくれますように祈るばかりです。

〔高原桐(詩)〕

◆トルファン(吐魯番)の蜃気楼

トルファン(吐魯番)は中国の西端にある新疆ウイグル自治区のトルファン盆地にあり海抜がマイナスのところも多い。特産として葡萄が知られている。東には独特の色形をした火焰山がある。歴史は古く、交河故城、高昌古城、蘇公塔等の遺跡がある。この詩の持っているロマンチックなイメージを大切に、そしてウイグル風の異国情緒のある曲とするために、新疆ウイグル地域の民謡、民族古典音楽を参考にした。この地の民族音楽は中央アジア風であり少し中国風であるので、中国の二胡音色と中央アジア風のリズムを使い、日本の箏でまとめた。(この曲を書くにあたって、新疆ウイグル地域の民謡、民族古典音楽を参考にしました)。

〔高橋通(曲)〕

◆露とこたへて

この作品は、伊勢物語第六段を題材にし、レチタテイーヴォ(伊勢物語原文)とアリア(佐久間さんの詩)から成る。「長い間求婚し続けた女との逃避行。草の上に光る露を見て、あれは何と尋ねる女。男は答える余裕もなく、激しい雷雨の中、荒れた蔵の中に女を入れ、戸口で守る。蔵の中には鬼がいて、女を一口で食べてしまう。夜が明けて見ると、女の姿がない。泣いても、どうしようもない。」男は在原業平。女は藤原高子。鬼は妹を取り返した高子の兄たち。佐久間さんの簡潔で巧みな構成の詩に込められた想いを、最大限表現したいと思った。〔田丸彩和子(曲)〕

◆光を花と散らす

世阿弥作の能《融(とおる)》から着想した詩である。主人公の源融は、六条河原に壮麗な邸を構え、邸内に陸前の松島や塩釜の風景を再現したと伝えられる人物で、光源氏のモデルの一人ともいわれる。荒れ果てた城にどこからともなく現れた老翁が、煌々とさす月の光の下昔の姿に戻りひたすら舞を舞う。「舞を舞い舞に舞はれて」(世阿弥の言葉)自由に舞い遊ぶ異世界の存在。それは、異文化世界に通じてどの作曲家・演奏家の出会いを通してどのように姿を現すのか。〔中西遙(詩)〕

◆組曲「ほろかなる想い」―薙能琴上に寄せて―
紅い火／葵上

「怖い話を」と言う池上先生の希望にしばらく躊躇していました。「六条の御息所なら・・」と言う横山さんの言葉に、かつて観た「日比谷シテイ薙能」の情景

を思い出しました。光源氏の愛を失った上、加茂の祭りの車争いで葵上に恥をかかれた怨みが重なり、その執心は身体を離れ、嫉妬の念をもやす。舞台の上で葵上の象徴である小袖を相手に、激しく責めさいなむ六条の御息所の霊、比叡山の行者小聖の祈りととの凄惨な争いの果て悪霊はしだいに成仏してゆくのでした。ピルの間の能舞台は、不思議な幽玄の世界に誘い、時を経て鮮やかによみがえります。〔伊豆裕子(詩)〕

◆「和」の編成による三つの歌
桜花幻想／夢あかり／駿河舞

このコンサートのために書く二作めです。今年は、「和楽器」のなかで私と比較的かわりの深い「笙」を扱うことにし、これに笙を拘わらせることにしました。――といってもどちらもタイの関係で――。詩と歌い手に関しては森田氏の御意向で決まり、楽器奏者に關しては当方の強い希望で決まりました。詩人の貞松先生とは未だお会いしていませんが、詞句の訓みなどについて電話でお問い合わせをするうちお話が弾んで、演奏会当日お目にかかるのを楽しみにしております。〔増本伎共子(曲)〕

◆遠き井戸

母の実家の玄関先の庭に、いまも木のおふたにおおわれた古い井戸がある。戦時中、私は、母の実家に疎開して、この井戸の水に厄介になった。現在では、「井戸」という言葉も死語になった感じが、私の内部では、後期高齢者になった今日でも、体の中を流れる血には、あの井戸水がかすかな音を立てている気がするのである。井戸水を飲んで少年期から青年期にかけて成長したこと

◆「うねり」―生きるために―

は、その後の私の精神形成に大きく左右した。井戸水は、私の心の底に芽生えつつあった詩魂を育ててくれた恩人でもある。釣瓶の上に西瓜を載せて井戸の底で冷やす。あのなんとも言い難い味は、美味中の美味でもあった。井戸水は、いつも空を眺めていた。それだけではない、その家の大小の歴史に包まれて、清らかな吐息と共にあった。作曲の小森昭宏先生から新しい詩の話があった時、私の脳裡に即座に浮かんだのは、いまではもう使われなくなった井戸のことである。私の詩の泉を引き出してくれたあの古い井戸のことを思うたびに、井戸は、辛いことも悲しいことも、きれいな水の下にそっと隠してくれただけではないか。私は、遠い日の数々の出来事を振り返り、そっと、回想にふけるのである。〔西岡光秋(詩)〕

一月に作曲の方に原稿「秋の夕暮」をお送りして、一応今年のテーマはきまって居りました。ところが三月十一日、かつてない規模の巨大地震と津波が東日本を襲いました。ことに津波は、前代未聞の激しさで、あつと言う間に、家も人も車ものみこんでしまいました。この日以来、日本全国、世界中の人々の愛の心が大きく揺れました。絶望と困難の中で、日々の生活を強いられる被災地の方達に寄せられる救援の波は、かつてないほどの勢いで、全国、津津浦浦に広がりました。五月の末に作曲の方と相談の結果、災害の復興を願って急遽、祈りと愛の詩「うねり」―生きるために―を作詩致しました。被災地の復興の一日も早からんことを心より祈りあげます。〔藤井慶子(詩)〕

*十七弦において特殊効果音を得る為の道具として栗林秀明考案のZETTESとZUTRI prepared を使用。